

平成 28 年度 第 3 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会会議録

会議名称：平成 28 年度第 3 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会

日時：平成 28 年 11 月 25 日(金)14 時～15 時 30 分

場所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 1 委員会室

主な議題：①古賀市子ども読書活動推進計画について

ア 経過報告

イ「古賀市親と子の読書活動等に関する調査」について

ウ 全体の構成について

エ 今後の進め方について

②その他

傍聴者：0 名

出席者：加藤 典子委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員 村山 美和子委員
渋田 京子委員 井手 由紀子委員 青木 扶美子委員 入江 伸介委員
四郎丸 直子委員 松村 隆毅委員 山浦 千春委員 草野 三保子委員
以上 12 名

欠席者：2 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画（未定稿）

③古賀市親と子の読書活動に関する調査の集計資料

資料 1 アンケート集計結果 小学 2 年生

資料 2 アンケート集計結果 小学 5 年生

資料 3 アンケート集計結果 中学生・高校生

資料 4 アンケート集計結果 保護者

資料 5 保護者自由記述

会議内容：以下のとおり

1 開会のことば

(事務局) 事務局の欠席の連絡をいたします。本日は教育部長、課長ともに会議がっております。終わり次第こちらに出席しますのでよろしくお願い致します。

それでは、古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会第 3 回を開催いたします。開会の言葉を古賀市立図書館長の梅谷よりいたします。

(館長) 改めましてこんにちは。本日はお忙しい中、また冷え込んでいる中子ども読書活動推進計画策定協議会に出席いただきましてまことにありがとうございます。この協議会は今日で 3 回目となりますが、今回は前回からの経過の報告、それから 11 月に「親と子の読書活動に関するアンケート調査」を行いました、その集

計結果の中間報告、推進計画の構成について、そして今後の進め方についてという順番で進めたいと思っております。

それから、8月に福岡県の子ども読書推進計画が策定されましたので、教育事務所から県の計画の説明をいただく予定にしておりましたが、あいにく所用で本日欠席ということですので、資料のみ机上にお配りさせていただいております。それでは、ただいまから第3回の古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を開催させていただきます。よろしくお願ひいたします。

2 会長あいさつ

(事務局) 続きまして、鈴木会長よりあいさつをお願いいたします。

(会長) 皆様こんにちは。寒くなりましたね。小さい時にいろいろな本に出会う事が大事だと思います。我々が今進めようとしていることによって、古賀市の子ども達に少しでも多くいろんな本に出会うきっかけをつくるべく計画しているということを改めて思ったところです。今日先ほど資料の確認があったように、大変たくさん資料があります。原案等も既に具体的な記述がされ始めましたので、これを受けて審議をしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

3 協議等

(1) 古賀市子ども読書活動推進計画（第3次）について

(事務局) それでは本日の協議を行っていただきますが、これから先の協議につきましては会長にお願いをしたいと思います。会長、副会長、よろしくお願ひいたします。

(会長) 協議等については具体的にレジュメで示されていますので、この方向で進めさせていただきますと思ひます。第3次の推進計画の具体的な事や経過報告なども含めて行いますので、前回よりさらに進んで細かい審議や協議をする必要があると思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

① 経過報告

(会長) はじめに、これまでの経過について海老名係長さんにお願ひします。

(事務局) 事務局より、第2回策定協議会後の経過について報告させていただきます。前回の会議後、実施がおくれておりました読書アンケートの実施に取りかかっております。10月1か月の読書について、11月初めに小学校8校、中学校3校、古賀竟成館高校にお願いして実施しております。当初は学校の中で子どもだけのアンケートを考えておりましたが、親子で読書について一緒に考えていただく良いきっかけになるのではないかとということで、家庭で親御さんと子どもさんに話し合っただきながら、一緒に書いていただく、読書について考えていただくことが良いのではということで実施しております。詳しくはこの後説明させていただきますことにしております。

また、会議で計画の目標、柱などの骨子を検討いただきました。各委員さんから5年間の成果、課題、いろいろな思ひを聞かせていただきましたので、それを受け、事務局で実際に構成を検討し、そこにお示ししているような形にしてはどうかというところで提案をしております。内容につきましても二章までを記入しております、検討いただければと思ひしているところです。

この2点につきまして、11月22日火曜日にワーキンググループ会議を開催いたしております。読書アンケートの結果につきましては、途中経過ということで説明し見いただいております。計画書については構成を説明の後、「第4章 子ども読書活動推進のための具体的な取組」で実際各課で持っている事業について記述をしていくわけですけれども、そのことについて、今後協力をお願いしてい

くということを確認しております。以上が経過の説明になります。

これから第3次の計画を検討いただくわけですが、本来であれば事前に資料をお渡しして見ていただいてからということにすべきだったんですけれども、当日になってしまい申しわけありませんでした。審議のほどよろしく願いいたします。以上が経過報告になります。

(会 長) ありがとうございます。第1章と第2章が具体的に記述されています。第3章以降はアンケートデータ等もあり、総括や具体的なそれぞれの場、団体等での取組等については次回追ってということで、今日は最初のところをしっかりと踏まえていきたいということです。この案等を事前に配っていただいているとよかったです。ざっと目を通していただきながら、説明を聞き、目を通していただくという形になりますのでお願いしたいと思います。経過報告についてよろしいでしょうか。

②「古賀市親と子の読書活動等に関する調査」について

(会 長) それでは読書活動等に関する調査について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 古賀市親と子の読書活動等に関する調査について中間報告いたします。資料1から5までお配りしております。

アンケートの項目及び配布について説明させていただきます。この調査は、子どもの読書活動を推進するために、家庭や地域、図書館においてどのような取組や環境が必要であるかということについて、古賀市の小学2年生、5年生、中学2年生、高校2年生とその保護者約3600人を対象に行いました。調査項目については、平成16年度文部科学省「親と子の読書活動に関する調査」の項目を参考に、設問の中の選択肢の中に、古賀市独自の取組である地域文庫や学校図書館開放などの項目を追加させていただき実施しました。今回の調査では、読書活動の推進という観点から、調査対象の本を単行本や文庫本、絵本といったものに絞って実施しました。10月24日、古賀市の校長会にて依頼し、その後図書館より各小・中・高等学校にアンケート用紙をお持ちいたしました。11月7日月曜日までを回答期限とし、11月11日に各学校に回収に伺い、その後直ちに集計にあたりたいところがございます。回答方法はお子さん向けと保護者向けの調査用紙、各一部ずつを封筒に入れたものを学校から配布していただき、家庭で、親子で読書活動について振り返っていただき、親子の調査票を一緒に入れて学校に提出していただきました。

次に、アンケートの集計について報告いたします。お手元の資料1は小学2年生のアンケートの集計結果です。資料2は小学5年生の集計結果です。資料3は中学生、高校生の集計結果です。資料4は、保護者すべての集計結果です。資料5につきましては小学校と古賀中学校までの報告となっております。1校ずつホチキスでとめております。後ほどご覧いただければと思います。古賀市内小学校、中学校、古賀竟成館高校様の各学校関係者をはじめ、保護者の皆様、児童生徒の皆さんの協力により、アンケートの回収率は当初事務局が予想していたのを大きく上回っており、次のとおりとなっております。

小学2年生児童への配布数は565に対し、有効回答数514、回答率は91%。

小学5年生児童への配布数は571に対し、有効回答数515、回答率は90%。

中学2年生生徒への配布数は523に対し、有効回答数406、回答率は78%。

古賀竟成館高校2年生生徒への配布数は221に対し、有効回答数194、回答率は88%。

小学2年生保護者への配布数565に対し、有効回答数501、回答率は89%。

小学5年生保護者への配布数571に対し、有効回答数510、回答率は89%。

中学2年生保護者への配布数523に対し、有効回答数400、回答率は76%。

高校2年生保護者への配布数221に対し、有効回答数197、回答率は89%となっております。

資料5につきましては、保護者向けに自由に読書活動について書いてくださいということで書いていただいたものでございます。このアンケートの記述から熱心に親と子で読書に関する話を家庭でしながら回答してくださっている様子が伺えました。本当にさまざまな意見がございましたが、このアンケートをきっかけに読書や本の大切さを見直し、改めてまた本を読もう、図書館や書店に行こうというきっかけになったという嬉しい回答もありました。

今後の予定でございますが、1か月に読んだ冊数や地域の図書館の利用状況、書店の利用状況、子どもの読書活動の支援についてさまざまに回答していただいておりますので、今後集計した結果を分析し、古賀市子ども読書活動推進計画（第3次）の計画の本文の「第3章 これまでの取組の成果と課題」総括の部分や、巻末の「資料編 資料1 親と子の読書活動等に関する調査について」の部分に分析結果を掲載する予定です。以上です。

（会長） ありがとうございます。本当にこの作業は大変だったと思います。回答率が8割から9割、7割のところもありますけども、数字を並べるだけでも大変な作業だったと思いますがご苦労さまでした。ありがとうございます。自由記述も学校ごとにまとめてあるようです。1つ1つ読むのも今日すぐというわけにはいきません。数字を比較するグラフとか表とかにすると一目瞭然というところはありませんが、まずは表をしっかりと作って、これから行う分析結果をもとに、成果と課題、今後のことが見えてくるのではないかとということです。

質問や意見等、全体的なことでも結構ですが、何かございましたら。

私の方から、自由記述の保護者は全部の学校が網羅されているのですか。それとも無いところもあるのでしょうか。

（事務局） 本日の午前中までに入力できた分をお配りしておりますので、全ての入力が済み次第、結果はお示しできると思います。

（会長） まだこれからの分も一部あるということですか。

（事務局） はい。

（会長） 打っただけでも大変だなということがよくわかります。項目も見られながら、何かお気づきになった点ございましたら。回答率が高ければ高いほど信頼性、信憑性が出てきますので、非常にすごいなと感心しています。次に全体構成の記述等も含めて説明していただけるとと思いますので、お手元のデータ等比べながら、意見がございましたら出していただきたいと思います。

③ 全体の構成について

(会 長) 館長さん、全体の構成記述等について説明をお願いします。

(館 長) 未定稿と書いております古賀市子ども読書活動推進計画というのをお開きいただきたいと思います。2 ページ 3 ページに今回作る計画の目次を作っております。第 1 章は計画策定の背景を記述いたしまして、第 2 章に古賀市子ども読書活動推進計画の基本方針を記述いたします。第 3 章でこれまでの取組の成果と課題を記述したいと思っております。第 4 章では、計画の柱を 3 つ立てて作るようにしておりますので、計画の柱ごとにそれぞれの事業について具体的な取組を記述していこうと思っております。第 4 章は今回作る第 3 次の読書推進計画の本当の内容というところになるかと思っております。第 5 章で、子ども読書活動推進計画の実施体系、これは行政の内部の体系を記述しておきたいと思っております。

資料編として、先ほど説明いたしました親と子の読書活動等に関する調査についての分析結果を記述し、古賀市の子ども達の読書活動の状況について分析して記載したいと思っております。資料 2 で子どもを対象とした読書活動団体の紹介、資料 3 で前回もありましたけども、古賀市読書活動の歴史を記述いたしまして、資料 4 で、今回の策定委員の名簿を記載したいと思っております。そして最後に、計画書の中で出てきた解説を必要とするような項目について用語解説をまとめて記載したいと思っております。

第 2 章までは既に第 3 次の計画に基づいて文書を記述して、記載しております。第 3 章からはこれまでの成果と課題ということで、まだ記載はしておりませんが、今回の調査結果等も踏まえながら取組の成果を記載し、そこから見える今後の課題を記載したいと思っております。12 ページ、第 4 章では計画の柱ごとに家庭、保育所、学校、図書館と分け、それぞれのテーマに沿った事業について行っている事業や取組、新たに始まっていく事業や取組の現状と課題を記載し、それに対しての課題解決に向けた今後の取組を記載していこうと考えております。それを計画の柱 1、計画の柱 2、計画の柱 3 というふうに記載していこうと思っております。第 5 章は先ほど申しましたそれぞれの事業に対する担当課の表になると思います。一覧表にまとめ、計画の柱ごとに行政の担当課を示したいと思っております。資料編は 26 ページ、親と子の読書活動に関する調査について、今は数字だけになっていますが、評価と分析結果等を記載していきたいと思っております。資料 2 では、前回も掲載しておりましたけども、子どもを対象とした読書活動団体の紹介、資料 3 では古賀市の読書活動の歴史、資料 4 で今回の委員さんの名簿という記載の仕方で最後に用語解説、このような構成で作成していきたいと思っております。以上でございます。

(会 長) ありがとうございます。第 1 章から説明がありましたけど、途中で気づかれた事等、前後して結構ですから、聞き逃した、あるいは確認したいこと等ございましたらどうぞ。

私の方から、資料編の中にアンケート調査の結果などを出すわけですけど、表なのか、グラフ化されるのか。自由記述なんかも載せるんですか。自由記述は計画のためだから、それを受けて盛り込んでいく、生かしていくということでしょうけど、自由記述は余り普通載せませんね。その辺はどんなふうに考えていらっしゃいますか。皆さんの意見も含めてでも結構ですが。

(館 長) この調査の使い方、この計画の中での調査の使い方は具体的に考えてはいないんですけども、その数字を見ながらの動向という形になるかと思えますし、文章の中で引用することもあるかもしれないというぐらいで、具体的に今お示ししておりますような、各学校の男性の 50 歳の方はこんなこと書いてありましたっていうような事はないとは思っています。引用する程度はあるかもしれないと思っています。

(会 長) わかりました。今のところ 2 章まで当初申し上げました内容ということでまとめてありますけども、第 3 章、第 4 章は具体的な内容としてこれからということですので、今日の段階では全体的なことですね。見ていただいて、気になること、項目だけは既に目次としてありますのでこの辺りも見ていただいて、意見等をいただければと思いますでしょうか。

(館 長) ただいま載せております項目は、前回の改訂版の時の項目と、今までに分かっている新たに始まっている項目を載せております。1 の柱の家庭・地域とか保育所・幼稚園、学校、図書館と区分しながら事業を入れておりますけれども、その区分けが、家庭・地域ではなく行政がすることだというようなことも考えられるようですので、その項目の入れ繰りも今後あり得ると思います。今の状況から少し変わるのではないかと考えています。新たに皆様の意見や、平成 29 年度予算編成により新たな事業が始まる可能性もありますので、そこに加わっていくというような形になろうかと思っています。

改訂版と構成を変えているところですが、前は柱ごとに計画の「現状と課題」を総論的に評価し、「今後の取組」のみを 1 つの事業ごとに具体的に個々に書いておりました。今回は具体的な一つの施策事業ごとに「現状と課題」、「今後の取組」を記載しております。一つの事業ごとに記述した方が理解しやすいのではないかと、前回とは文章の作り方を変更させていただいております。内容的にはそんなに変わっておりませんが、書き方を少し見直しさせていただいております。

(会 長) 今言われたのは、第 4 章等で例えば「ブックスタート事業の充実」についての「現状と課題」、「今後の取組」、次は「つどいの広場事業」の「現状と課題」、「今後の取組」についてのように示していけばより理解が進むのではないかなということ。そういうまとめ方でいったらどうかということ。今説明がございました。そこが前回の改訂版の内容より具体的、分析的になっているかと思えます。県立図書館企画協力課の枡村課長、お気づきの点何かございませんか。

(枡村委員) 見比べながら見てみましても目次のところではすごくまとまりが出たと思っております。この「柱」という言い方はやっぱり踏襲されるんですか。

(会 長) 違う表現のほうがいいのではないかという事でしょうか。

(加藤委員) この推進計画自体は教育委員会から出されるわけですよね。その場合、第 4 章の計画の柱の 2「関係機関との連携・協力」の「関係機関」とは図書館との関係機関ですよね。何か図書館主体な感じがするんですが、図書館との関係する機関という意味ですか。読書に関する関係機関同士ということですか。

(館 長) 関係機関というのは行政も含めてなんですけども、計画の柱に書いておりますように、家庭・地域、保育所・幼稚園、学校、図書館と書いておりますけども、本来ならここは行政（図書館）という感じもします。項目を見られたときに例えば「児童館の整備」とか「社会教育における読書活動の整備」とかありますけども、これは図書館がするものではなく、児童館の担当や社会教育の担当が行うものでありまして、関係機関というのは、子どもの読書を推進するに当たって関係する全ての機関、図書館との関係ではなく、子ども読書推進に関する関係機関というとらえ方で関係機関という言葉は使っております。

(会 長) 例えば学校と図書館、学校と図書館と児童館、学校と児童館もあるでしょうし、学校と図書館と地域文庫さんもあるでしょうし、地域文庫さん同士もあるでしょ

うし、いろいろ皆さんが一緒になって進めていきたいと思いますという考え方ですね。

(加藤委員) 公共図書館があり、他の学校などがあるのではなく、古賀市全体でということですね。

(館長) この推進計画は表紙に古賀市教育委員会と書いておりますけども、よその計画を見ると〇〇市ということで作られているところもあります。

例えば、1番最初の「はじめに」は、例えば〇〇市長だれだれと書いてある計画も中には見受けられます。たまたま行政が関係する機関が主に教育委員会にありますものですから古賀市は教育委員会としていますが、以前のように児童館が民生の部署にあった場合は、教育委員会ということは適当でない気がしますし、古賀市という形になるかと思えます。子ども読書活動の推進を教育委員会だけですか、古賀市全体じゃないのかという感じもありますし、古賀市がつくる子どもの読書活動推進計画というほうが本当はいいという気はしております。

図書館中心でやりましょうということではなく、皆が連携して子ども読書活動の推進をしましょうというのが計画の趣旨でしょうし、国もそのような思いで市町村に子ども読書活動推進計画をつくりなさいと指示しているわけでしょうから、図書館中心でやる事業ではないとは思いますが。

(会長) そうなると表記の仕方、「との」や「への」の部分で何を主体にしているのかということが出てくる。説明されたとおりですけど、表記の仕方が「との」とはどこからという「関係機関との」ですが関係機関は色々ありますよね。「～との連携・協力」というと「図書館との」連携になるんですよね。関係機関同士、関係機関内のネットワーク化、連携というような言い方を指し示していくということであれば書き方の検討が必要ではないかと思うんですけども。今私は前の計画を見ているんですが、前も「との」と書いてあるんですよね。

(館長) この辺りは前回と変えておりません。

(会長) 「への」とか「との」とかが前の計画と同じだと思って見ていたんですね。前の計画が図書館を中心として他の団体「との連携」というようなことが多く出ていたので、もう一歩踏み込んで関係機関との連携、関係機関同士の横とのつながり、全体のネットワーク化となっていくと良いと思います。ネットワークという言葉は前もあったのでしょけれど。記述によってこういうことは実際はつきりしてくると思います。

館長さんの指摘はそのとおりだと思うんですが、「との」ということは、図書館が中心になって、「～との」「～への」という記述だろうなと思います。もちろんしなければならぬと思いますしね。

気がつかれた方、今のようなことをどんどん言っていただけますか。

(加藤委員) たぶん計画の柱自体はそれぞれの読書活動の推進と充実をうたっているのが一つ目の柱で、二つ目の柱は多分、連携や協力、ネットワークについてというところですね。そこが柱の1、2の表記に明確に示されるともっとわかりやすいのかもしれないですね。

(草野委員) 字面だけ読み終えてしまうとそうなるような気がするんですね。

「公共図書館等と学校図書館とのネットワーク化及び子どもを対象とした読書活動団体等との連携・協力」。

私この間に句点がないといけないと思います。三つのグループが改訂版の計画のイメージ図にあるように皆重なっているのを、この文章で見えにくくしている

んじゃないかと思います。例えば、ネットワーク化「、」及び子どもを対象とした読書団体等との連携・協力とか、館長がおっしゃったようにいろんな諸団体が連携するという意味に私はとっていたので、句点が入ると読みやすく関係が絵に見えやすいかなと思ったんですけども。

(会 長) なるほど、ネットワーク化「、」及び子どもを対象とした読書活動団体等との連携・協力。ネットワーク化という部分と読書関連団体等との連携という部分ですね。今、加藤委員さんのおっしゃることは、連携がその団体間ということをおっしゃっていると思います。図書館とだけではなく、そこのところをはっきり「との」の「と」をとるとか。「団体等の連携協力」ではおかしいのかな。

最初の「ネットワーク化」までは「公共図書館等と学校図書館とのネットワーク化」というのが1点ありますよね。次に子どもを対象としたいろんな団体「との」というのは、公共図書館等との連携なのか、団体間の連携協力なのか。でも、図書館等との連携協力も当然ありますし、大事なところだと思うんですよね。村山委員さんどうぞ。

(村山委員) 村山です。今のお話を聞きながら前回の平成24年の改訂版を見ておりましたら、イメージ図というか構想図のようなものがあるようです。これを基本にしてネットワークでどのように関係しているかということ再度見直しされて柱の文章を練ったほうがよろしいのではないかと思います。

(会 長) 前の改訂版の29ページですね。イメージ図を生かし、確認していくことで明らかになる、検討する必要があるのではないかと思います。どうぞ。

(草野委員) 私も先ほどから見ている、イメージ図が次の第3次の計画の中に入っているのかなとページをめくっていたんですけど、目次の中に入っていないですね。

文字だけだと一般的にわかりにくいんです。以前、第1次の計画のとき、子どもが真ん中にいて、かかわり方が目に見えてくるというのがありましたので、イメージ図は第3次の計画の中でも欠かせないんじゃないでしょうか。今、目次をめくりながら思ったような次第です。

(会 長) 一つの意見ということで、それを踏まえて検討していきたいなと思います。

この目次に書いてある流れそのものは大変すっきりしていいと思います。イメージ図、グラフや表等を工夫すると、読む者にとって明らかになっていくと思います。文面と同時に今のような工夫が何かできないか検討していきたいところですね。ほかにいかがでしょうか。

特にないようですが、これからじっくり読んでいただかないといけないし、数字等も比較しないとわからないところがあります。自由記述のところもいくつか読んでもなるほど、保護者の方はこのようなことを考えていらっしゃるのかと。批判的な面ももちろんありましょ。しかし、大事なところの指摘もされていますし、小学生あるいは高校生の保護者、中学生の保護者も書いていただいていますので、今一度読み直して次の協議会の時にまた考えていきたいなということもあります。今日は今の段階でのたくさんの資料をいただきました。どうぞ。

(草野委員) 最初もらったレジュメだと、序章とかを検討しますと書いてあったと思うんです。「はじめに」というところ、なぜこの「子どもの読書活動推進計画」の策定をしてきたかを書いているんですけど、今会長がおっしゃったように、数字のところ折れ線とか棒グラフ等が出てくると、最近よく不読率が高いといわれているのが目に見えてくると思います。2000年以降の経過を入れていただけると、私たちがわかっているだけでなくいろんな人がわかっているようになるん

ではなかろうかと思えます。たぶん読書量が下降気味になってきていると思うんです。小学校ではこの自由記述の中にも親御さんの言葉とかあるんですけど、小学校時代は読んでいっぱい借りてきたけど、なかなか読まなくなっているとか、ゼロ冊だとか。毎日新聞の調査でよく見るんですけど、今回は少し上向きになっているというのが載っていたと思います。5年後に私達は何を見るのかと思ったときに「はじめに」や序章などで何かデータがあると読みやすいと思っております。

(会 長) 今のところは、第1章の中のこれから記述される現状のところですね。アンケート調査の分析結果は巻末に資料がでることになっているんですけども、記述と同時に目に見えるような形で出てくるとより良いのではないかという意見ですがどうでしょう。

(館 長) その辺りは第3章の中で書いていこうかなと思っていたんですけども、まだ文字になっておりませんので。

(会 長) 第3章の5年間の取組の成果と今度調査した結果ですね。

(館 長) 全国的な調査は毎年行われていますので数字があるんですけども、古賀市は今回初めて調査を行いましたので、第4次の計画をつくるときには5年間の比較の数字がきちんと出てくるのではないかと思います。前回調査をしておけば上がり下がりがわかったんでしょうけども、今回初めてでしたので。言われたように、子どもが本を読まなくなっているとかいうのは保護者の方の言葉の中でしか見られないということにはなろうかと思えます。数字はその時の数字ですから、それが良いのか悪いのかというのは今の段階ではこれが増えてこうなったのか、減ってこうなったのかというのはこの数字からは読み取れません。その辺は保護者の方の言葉を引用しながら書くくらいにはなろうかと思えますし、また全国調査を見ながらの書き方ということになろうかと思えます。

(会 長) ありがとうございます。古賀市で今度とった調査の比較というのは今はできませんので、全国的な傾向や状況を表で出すのか言葉で出すのかはわかりませんが出すことはできますよね。その中で、今言われたようなことは、現状として見えてくると思えます。

④ 今後の進め方について

(会 長) それでは今後の進め方について、示していただけますでしょうか。

(事務局) 協議いただきましてありがとうございます。計画の柱の2のところ、イメージ図、不読率等のデータの示し方等々の意見をいただきました。今後生かしていきたいよう検討していきたいと思っております。

今後の進め方について説明いたします。読書アンケートにつきましては、数字の羅列そのままをお渡ししている段階でございます。これから先、数字から見えてくるものということで、全国と古賀市との比較、古賀の特色はどうかなどの分析をしまして、事前に調査しました成果と課題を合わせまして本文のほうに生かしていきたいと思っております。読書調査アンケートにつきましては、初めて今回行ったわけですけれども、5年後に計画を見直す際には同じアンケートをとることで読書活動の動向を知ることにつながるのではないかなと思っております。実際の親御さん、子ども達の生の声を寄せていただくことで、5年ごとの見直しのときにもより良い推進計画ができていくと思っております。

これから実際の事業を主に4章に記載することになると思えます。柱を3つ立

てまして、それぞれの取組について具体的に文章にしていきます。先ほど館長が申しましたけれども、取組む事業の確認、精査、新しい事業があるのか、その辺りをワーキンググループと協議しながら行いたいと思っております。内容につきましても、図書館で文章を起こしましてたたき台をつくり、ワーキンググループで見直して検討いただきながら、次回の策定協議会で協議していただく素案をつくっていきたいと思っております。

次にお集まりいただく第4回の策定協議会ですけれども、2月を予定したいと思っております。その時にまた次からの検討をお願いしたいと思っております。今回事前に資料をお渡しできなかったのは本当に申しわけないと思っております。次回は事前に資料を送付させていただいて、事前に目を通していただいでご参加いただけるようにさせていただきたいと思っております。今後このように進めていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(会 長) ありがとうございます。今の件についていかがでしょうか。

(渋田委員) 今の説明によると、今後、今までの事業の現状や課題、今後の取組について出てくると思うんですけど、我々はそれを見て、こうした方がいいああした方がいいという意見を言うていけば良いということですか。

(会 長) はい、どうぞ。

(事務局) まず文章化して見ていただいてそこから色々な意見をいただきたいと思えます。本当に今日どさっと資料をお渡ししておりますので、ここが疑問に思うとか、ここはどうだろうかということも見直していただいて、事務局にお寄せいただければありがたいと思っております。あわせてよろしくお願ひしたいと思えます。

(会 長) よろしいですか。はい、どうぞ。

(渋田委員) 今日今示されている9ページのところまでの文面についての意見というのは、次回以降はしなくて、今日もしあるんだったら事務局に直接ということですか。

(事務局) ここはきちんとまだ検討していただいておりませんし、この分量ですので、すぐには難しいかなと思っております。事前にお寄せいただき、最終的には第4回協議会でもう一度きちんとやりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

(会 長) これを受けて次回に第1章や第2章などすべての確認をその都度していきますということによろしいですか。

言われましたように、今一度読んでチェックして見ていただいて、このあたりが気になる、あるいはこういう文面にしたらどうかといった積極的な意見も結構です。図書館の方に係長さん、あるいは館長さんのほうに意見を出していただく、またそこで修正を加え、記述に生かしていくということになると思えます。お気づき次第御連絡していただくという事ですね。連絡方法は口頭でもFAXとかでもなんでも結構だと思います。

(2) その他

(会 長) それでは、その他としまして、皆様から何か、例えば子ども達の読書活動の様子、あるいは、学校や保護者、地域の状況を先ほど出たような各団体等のいろいろな活動の中で気づかれたこと、今こういうことがあったんですよとか、気になる点、計画の中に生かすことができるといことも念頭に置いて、今ここで言うておきたいなという意見がございましたら出していただければと思います。

はい、どうぞ。

(草野委員) 私達読書のことをして、今体験が少ない子ども達がたくさんいます。絵本の世界から体験を知ることあるんだけど、赤ちゃんの時から幼児期まで、保育園や幼稚園で自然体験、社会体験、行事体験等をたくさんして下さって有意義な姿を見ています。子ども達が小さい時にいっぱい体験させてあげようということは読書の基礎みたいなものです。子どもが五感で体に何らかのを感じ取るということはすごく読書につながっていきます。

「メディアのことは抑え気味に」とサンコスモの4か月健診でもちゃんと啓蒙していらっしゃる、そういうのが計画の中にあまり見えてきていません。序文の中には入っていますね。

若いお母さん達が、「テレビ見せちゃいけないんですよ、まだ赤ちゃんだし」と苦痛のようにおっしゃることがあるんですね。「ちょっとの間見せてあげたい」とか、「見せると私が楽」とか。テレビを見せないことを勇気づける人が周りにはいないというのも気づきましたので、「一緒に図書館においでよ」とか、「でんでんむしとか行こうよ」とかお話しするんですけど。

体験、体で感じる五感がとても少ないような気がするので、警鐘を鳴らさないといけないんじゃないかと思うことがこの頃頻繁にあります。読書のことをずっと言っていくことも大事ですけど、最後かまとめかはわかりませんが、警鐘を鳴らしていくのを大事にしてほしいなあって思います。大人皆が共有して、子どもを真ん中にしたいなっていうのが昨今思うことです。

(会 長) ありがとうございます。先ほどのイメージ図で、先ほど草野委員さんが「子どもを真ん中にして、中核にして」と言われたように、取り巻く環境が様々な中で、子ども達を市民、親、大人、皆で支えて育てていくという姿勢の中で読書活動を推進していきたいということですね。読書という間接経験、体験以外に、直接的な体験、経験を大事にしながら子ども達を豊かに育てていくという視点を忘れてはいけないという事について警鐘を鳴らしていかなければいけないのではと言われました。また時代的な問題、電子メディアの発達がありますので、そこを踏まえながら感性豊かな子ども達に育てていくという姿勢、こういったことを私たちが考えていかなければいけないということ。何か計画の中にもし盛り込まれることができるといことでしょうかね。大事な指摘ですね。特に、保育園、幼稚園の方、あるいは高校の先生もいらっしゃいますので何かございませんか。

(入江委員) 古賀竟成館高等学校の入江です。高校生は読書という観点よりも、受験ですね。特に3年生はもう受験シーズンになってきていますし、また1、2年生の先生方の中でも、今本校は朝読書を入れているんですが、朝読書はむだじゃないかということと言われる方もいらっしゃるんですね。10分間は長いんじゃないかという方もいらっしゃいますし、10分じゃ足りないんじゃないかという方もいらっしゃる。それぞれやっぱり考え方があると思うんですよ。今この保護者の自由記述を読んでも、税金のむだじゃないかと書かれている方もいらっしゃいますし、逆にもっともっと子ども達に提示してあげてほしいってということも書いている方もいらっしゃるので、いろんな価値感があると思うんですよ。僕は個人的に先ほどの関係機関「との」というところではあんまりこだわりはなかったんですよ。むしろ

る草野委員がおっしゃったように子ども中心に考えたならば、その中心の子ども達にどうあるべきかということをいろいろ提示してあげることが、この会の目的なのかなと思っていたので、言葉尻よりもむしろその子ども達にどう接していいのかのほうが。

高校でもっと自由に読書の時間をとりたいと思っています。実際問題として、読書の時間をとると生徒達は寝るんです。受験勉強の疲れをとるための読書の時間になってしまっているの、それだったら我々は起こす、読書させてないというジレンマがあります。全体で読書をするというのはいろいろ問題があるのかなと考えているところです。今期末考査中で、この期末考査中は朝読書はないんです。我々の思いが、できるだけ子ども達や保護者に伝わるようにと考えておりますので、ぜひ色々なお知恵を拝借しながら、よりよく学校のほうの生徒達に還元していきたいと思っておりますのでぜひこれからもよろしくお願いいたします。以上です。

(副会長) 入江委員さんから保護者自由記述のことにも関連をされて学校の現状をお話しになりました。保護者自由記述というのは立派な結果ですね。この中には多様な見解とか内容が複雑にからまって展開されているわけです。私は今後皆さんの意見を活用するためには、研究的な視点というか類型化が必要だと思います。このままだと多様な意見があちらでもこちらでも出てきますよね。ある一つの基準に従って意見や内容を全体を解釈するような幾つかの類型化をし、整理し、分析作業をすることによって生きてくると思いますね。私は個人的には日本人類言語学会というのに所属しているんですが、幼児の言語指導とか教育の専門家もたくさんいるわけですよね。私はこの資料をいただいて、私自身でもある程度まとめて類型化をして説明をすれば、とても貴重な資料になると思えました。類型化した説明をA4版とか1枚とか2枚にできたら、今後もしまたなされる時に非常に解釈しやすくなりますよね。皆さんの意見がこう変わってきたとか、私は表現だけちょっと使うぐらいじゃもったいないぐらいだなと思います。ただ仕事の全体の忙しさがありませんからこれ以上つつこんで何かというのはすぐお願いするのは難しいと思いますけれども、本当に活用すればしがいのある現状を知るための大事な意見がたくさんあると思います。

(会長) ありがとうございます。意見ありましたら、どうぞ。

(井手委員) 途中から来ましたので、この発言が今の状況にあっているかどうかかわからないんですけども。前回の件でまだひっかかっていた部分があり、お話をさせていただきたい点があります。ブックスタートに行く保護者はいいいんですが、興味がない保護者をどうするかというのにもう少し目を向けられないかなってというのが私の中であります。4か月健診の時に本の紹介や啓発を行っていますというのはあるんですけども、税金のむだ遣いになるかもしれないんですが、その時に本を配ってあげることにはできないのかな、そうすれば皆さんに本は行くわけですよね。保護者の自由記述のところで「本を読みたい、読んであげたいと思うけれども、何を讀んだらいいのか子どもの年齢にはどんな本が良いのかわからない」とか「本人が1冊でも楽しかったと思える本に出会えたら自ら本を読みたいと思うのではと考えます」という意見がありますが、本との出会いがないと読書につながらないと思うんですよね。啓発の部分で、もしよろしければしていただきたいと思っております。健診時いただいた本を親が読み聞かせするかどうか、そこまではわかりませんが、本があるってということが今大事なんじゃないのかなって、おうちに絵本がある家庭がどれだけあるのかなって思っているところです。

(会長) はい、どうぞ。

(青木委員) 青木です。今子育て応援サポーターをしています。ブックスタートですけど、4か月健診のときに一応本は配っております。サンコスモの方に聞いたのですが、「来られない方にはどうされていますか」ということで、「来られない方っていうのはいろんな事情を持ってお母さん来られないので、本と一緒に持って行って、訪問する目的の一つとして本を渡しながら、来られていないお母さんのところに行っています」と一応おっしゃってありました。

(村山委員) 先ほど、高校の先生が読書の時間についておっしゃってましたね。私は学校の職員ですけど、力を入れるところに時間をたくさんとる、お金をたくさんつぎ込む、学校もあれも大事これも大事ということで細分化されて、子ども達は遊ぶ時間もなくてあれこれやっているわけです。お金もこういうところにはなかなか予算をつけてもらえないというようなこともあります。最近思いますのは、やはりそこを越えないと一歩進まないかなと思います。最終的には関心意欲ですよ。本が好きになるというのは環境づくりとかですべてが大きな役割を補うことはできないと思うんですね。例えば私は草野委員さんをよく知っているんですけど、御自身を磨かれて、それだけの啓発力を身につけていらっしゃいます。やはり私たちが、そこを身につけない限り一歩進まないなど。研修に行ったからとか地域に行くと、良いものを見てきたからというレベルではなく、実際、実体験というのが一番大事だろうと思うんです。その辺を私達がどれだけ積み上げて、一方で読書推進に取り組んでいくかが随分大事だと思います。私は小学校ですけど、大変細分化されて、例えば、20分間の余裕時間を月曜日は算数、火曜日は読書、水曜日は国語の漢字と振り分けて、それをするのが大変で、子ども達も今日は何かしらと、次々に出てくる内容を消化している訳ですけど、それはそれで成果がありますけれど、やはり、今の状況を打開することにはつながらないと私は思います。そういうことで、ここに参加させていただきまして、いろいろな体験を積んでおられる方と、話をさせていただくというよりも聞かせていただけることが大変勉強になっております。以上です。

(会 長) ありがとうございます。今の井手委員さんの意見で、本を保護者の手元に届ける、実際に届けるということもあるんでしょうけど、そういう環境を整えるということではないかと思えます。最後に村山委員さんがおっしゃったのは、高校の入江委員さんもおっしゃいましたが、学校の方針、重点をはっきりさせるという事、そして職員がそれに向かってやるということが大事ではと思います。

いろいろな意見を出していただく事が大事だと思うんですね。その中で、今私達はこれをつくり上げていくわけです。いろんなことを盛り込んでいく、はっきりさせていくことにつながると思えますので、このように意見を出していただく事はとても大事だと思います。ありがとうございます。

それでは事務局のから次回のスケジュール等のお話があると思いますのでよろしくをお願いします。

(事務局) 第4回の会議について、2月14日の週の午後で考えておりますけれどもいかがでしょうか。この場で決めておいたほうが良いのではという意見をいただいておりますので、できればもう決めさせていただこうかなと思っております。できれば決めたいということです。

(会 長) 14日、15日、16日、17日あたりですね。

この日はダメという日があれば言うだけでいいです。14時午後、曜日は火水木です。だめという日は言うだけでいい、1人でも多くの方に参加していただくと、次はたぶんまとまったものがどっと出てくると思いますので。完成はでき

ないにしても。ご都合の悪い日、まだわからない部分はあると思いますけど。

(草野委員) 15日は都合が悪いです。

(会 長) 水曜日はやめてということですね。

(事務局) 事務局としては14日、16日どちらでも大丈夫です。ここの場所もあいているということなので委員さんが1番いいところで決めていただきたいと思います。では火曜日でもよろしいでしょうか。

(会 長) 14日火曜日ですね。

(事務局) 先のことで予定がわからない委員さんもいらっしゃると思いますけども、2月14日火曜日14時からに決めさせていただきたいと思います。

続いてよろしいでしょうか。会議録公開に先駆けまして委員さんに毎回校正の協力をいただいております。1回の会議に2名の委員さんをお願いしておりますけれども、今回は古賀竟成館高校の入江委員さん、草野委員さんをお願いしたいと思っております。会議録が出来ましたらお手元にお渡ししたいと思いますので、ご覧いただきまして訂正等ありましたらこちらの方にお知らせいただきたいと思います。署名をしていただく用紙と共にお送りしたいと思いますので、ご多用中と思っておりますがよろしくお願ひします。送付させていただきたいと思ひますので、お忙しい中だと思ひますけれどもよろしくお願ひいたします。

(会 長) ではすみませんが入江委員さんと草野委員さんよろしくお願ひします。

4 閉会の言葉

(事務局) たくさんの協議、それから貴重な意見をたくさんいただきました。図書館としてもいろんな事を胸に、いろんな価値感の方や保護者がいらっしゃる、いろんな利用者が来られるという事ですね。それから、先ほど井手委員さんがおっしゃっていましたが、本が家庭にあればというところ、ものすごく胸に突き刺さっているところでもあります。本日もご多用の中お集まりいただきまして本当にありがとうございました。

これをもちまして平成28年度第3回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を終わります。本日はありがとうございました。気をつけてお帰りください。